



TITLE:

図書館業務機械化準備班の設置について

AUTHOR(S):

CITATION:

図書館業務機械化準備班の設置について. 静脩 1982, 19(2): 5-6

ISSUE DATE:

1982-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36907>

RIGHT:

図書館業務機械化準備班の設置について

近年における学術情報の急激な増加と多様化に伴って研究者の学術情報に対する要求も著しく増加し多様化してきている。このような時代の趨勢に対処するため理念的には資源の共有、技術的には電算機と通信技術の駆使の二つを根幹とする全国規模の学術情報システムが立案され、学術情報センター（National Center）の設置準備を中心に計画が進捗している。（「静脩」1981年2月号外で既報）。このような状況の下、滋賀、京都、奈良三府県の国立大学図書館（滋賀大学、滋賀医科大学、京都大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、奈良教育大学、奈良女子大学）においては、かねてから「近畿北部地区国立大学図書館機械化ネット・ワーク協議会（昭和56年4月1日発足）」を組織し、今後あるべき機械化の姿・技術的問題等について検討を行なっている。これは学術情報センター（N.C）、京都大学等の各地域センター（Regional Center）、各大学図書館及び各図書室（Member Library & Terminal）を通信回線で結び図書館業務を共同で処理するため

のネット・ワークを形成するものである。このネット・ワークに参加する館の日常業務は電算機を使って、オンライン方式で処理される。このネット・ワークの形成により図書館資料の共同利用化を促進させると共に、図書館業務全般の効率化、省力化を図り、図書館サービスの総合的向上を目指すものである。

本学における図書館機械化計画は、来るべき全国規模の学術情報システム、即ち全国大学図書館ネット・ワーク化計画中に占める地域センター（R・C）としての役割を充分に自覚しつつ学内及び地域内の各大学図書館・室（M・L & T）との密接な関係のもとに利用者の多様な情報要求に応えようとするものである。このため学内各部局の協力を得て、まず図書館の日常業務の機械化を昭和59年1月を目途として準備してゆくため、下記の準備班を発足させた。特に大型計算機センターから教官・技官3名の援助を得て、この準備班の作業にアドバイスをいただく予定である。

図書館業務機械化準備作業班設置要項

（昭和57年7月19日館長裁定）

京都大学における図書館業務機械化を昭和59年1月を目途として円滑かつ的確に実施するため、この要項を定める。

1、班の設置

次の作業班をもうける。

(1) 開 発 班

- ア、受入業務機械化作業班
- イ、目録業務機械化作業班
- ウ、閲覧業務機械化作業班
- エ、雑誌業務機械化作業班

(2) 実 験 班

- ア、Japan—MARC 実験作業班
- イ、LC—MARC 実験作業班

2、班の任務

(1) 開 発 班

図書館業務の実務的な種々の問題を検討し、最終的にはシステム設計原案の作

成をめざす。

(2) 実 験 班

図書館業務の機械化に必要な具体的実験を行なう。

3、班の構成

開発班、実験班は原則として次により構成する。このうち若干名は両班に重複して加わるものとする。ただし必要に応じて若干の増減をすることがある。

(1) 開 発 班

附属図書館職員	10名
部局図書館・室職員	15名
その他	若干名

(2) 実 験 班

附属図書館職員	5名
部局図書館・室職員	
人文・社会科学系部局職員	若干名
自然科学系部局職員	若干名

4、総括責任者

附属図書館事務部長を総括責任者とし、
整理課長 および 閲覧課長がこれを補佐する。

5、幹事

各班に幹事を置く。幹事は附属図書館事

務部長が指名する。幹事は班の中心となり
円滑な班の運営をはかる。

6、連絡担当掛

作業班に関する連絡調整事務は閲覧課学
術情報掛が担当する。

準備作業班計画

○ 開発班

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
基本設計		機能設計		機能詳細設計		提案書の作成				
データの整理 データベース構造の検討				システム全体としての機能の 明 確 化						
↑ 実験班との 打合せ		↑	↑	↑	↑	↑	↑			
		実験班との 打合せ		実験班との協同で 外部仕様書作成		実験班との協同で 提案書の作成				

開発班 4 班共 月 2—3 回開催。各班の幹事合同会は月 1 回開催し、大型計算機センター
の教官のアドバイスを受ける。

○ 実験班

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
<div>→</div>										
DB 構造 の検討		J.MARC 変換デー タ作成	書式検索 手順検討	DB 構造 変換デー タ作成	J.MARC 変換デー タ作成	検索応用プログラ ムの実験		実験と検討		
L.C.MA RC 〃		同上	同上	同上	L.C.MA RC 〃	同 上				
(総合) 雑誌目録 変換デー タ作成		同上	雑誌目録 同上			同 上				
↓		↓	↓	↓	↓	↓				
開発班との 総合打合せ		〃	〃	開発班と共同で 外部仕様書の作成		開発班と共同で 提案書の作成				
<div>→</div>										
FAIRS					R D B					
<div>→</div>										
DB 構造 検討	FAIRS 下のデー タの作成・検索		DB の構造及び データの検索		RDB 下の DB の 作成応用プログラ ムの作成			検索実験		

実験班 大型計算機センターの技官 2 人の援助をうける。

L. C. MARC 班 検索実験，取り出し，書き込み，RDB についての研修

JapanMARC 班 検索実験，取り出し，書き込み，RDB についての研修

学術雑誌総合目録 検索実験，取り出し，書き込み，RDB についての研修